

公共交通での旅 第二弾【岡山県編】

こんにちは。中国運輸局交通政策部 北川です。

車を運転しない（できない？）私が、公共交通で旅した場所をご紹介します。

第二回目は岡山県北部地域です。

5月某日（土曜日）。

前日所用で東京にいた私は、空路で岡山入り。

県北部を訪問しようと思っていたので、岡山空港から乗合タクシーで津山を目指します。乗合タクシーは、前日までの予約制なのですが、そのことに気づいておらず当日運行会社に連絡。運良く11時台に2名の予約があったので、乗れることになりました。飛行機は9時台に岡山に到着したので、1時間ほど空港デッキでひなたぼっこをして乗り場へ。事前に予約された2名はキャンセルとなり乗客は私1人でした。運転士さんの案内をお聞きしながら70分で津山駅に到着です。

駅近くのホテルに荷物を預けると、ちょうど駅に「柵原星のふる里バス」が止まっています。予定を決めていなかったのですが、運転手さんに美咲町まで行けることを確認し、乗車しました。

終点の「柵原病院前」で下車しランチに向かいます。この日の昼食は柵原病院から徒歩3分の「たまごかけご飯の店らん」です。美咲町は卵かけご飯を好んだ明治のジャーナリスト岸田吟香の出身地で、たまご料理で町おこしをしています。「らん」では、岡山名産黄ニラ、ゴマ、シソ、葱、海苔の5種類のタレを楽しむことができました。

食後は、歩いて柵原鉱山資料館に向かいます。途中、「黄福柵原駅」という手書きの看板があったので誘導されて行ってみると駅舎があります。柵原鉱山で採掘された鉄鉱を運んでいた片上鉄道は1991年に廃止されましたが、その後も廃線跡を活用した展示運転が行われ、2014年に路線延長するとともに、新駅として「黄福柵原駅」が開業しました。現在も毎月第一日曜日に展示運転が行われています。



柵原鉱山資料館は、鉱山の様子を再現しているフロアがあり想像以上に見応えがありました。なお、美咲町の黄ニラは鉱山の採掘に使われていた坑道跡を利用して栽培されているとのこと。坑道農業見学会も開催されているとのこと、ぜひ見てみたいものです。

見学後は、資料館横の「吉が原駅」バス停から、津山駅に戻ります。まだ16時台だったので、車中で次に行けるところを調べてみると、美作市に行くバスがあるのを発見しました。津山駅の手前でバスを降り、美作市営バス（福本・津山線）に乗り換えます。土地勘がないので市営バスHPの路線図を見てもどこを通るかわかりませんでした。Googleマップで調べて見ると、終点の「福本」で宇野バスに乗り換えられるようでしたので終点まで行ってみることにしました。終点に着くと、バス停は美作市英田総合支所に隣接していました。立派なバス待合所もありますが、この日は休日故か閉鎖されていました。乗り換える宇野バスのバス停を探しますが、敷地内には見当たりません。再度、Googleマップにて数分歩いたところにバス停があるのを確認し、そちらに向かうと無事バス停がありました。

宇野バス美作線（林野駅行き）に乗り、平安時代に開かれたと伝えられる湯郷温泉を目指します。このバスは、岡山の表町バスセンターを始点として、湯郷温泉を経由して林野駅まで運行されており、土日祝日には1日3本運行されています。湯郷温泉は非常にさらっとしたお湯でした。

この日の締めくくりとして、居酒屋に向かいます。バスはすでに終了していたため、タクシーで美作市役所に向かいますがお目当てのお店は満席。別のお店を目指して歩き始めました。林野駅からすぐの道を通ると真っ暗。反射材の重要性を実感しました。到着した居酒屋「いろは」では、岡山のお料理とお酒を楽しみました。カウンター隣で仲良くなったおじさま2人組に林野駅まで道案内していただき、再会を約束して1日目は終了しました。

2日目の日曜日は、今回の旅の目的であった奈義町に行きます。津山駅前から中鉄バスで40分、「奈義町現代美術館前」バス停に到着です。昨年パンフレットで見てから気になっており、ようやく訪問がかないました。美術館については皆様にもぜひご自身で体験していただきたいので詳細は控えますが、青空に映える美術館が印象的でした。また、同じ敷地内にある図書館も見応えがありましたので併せてご訪問下さい。



11時台のバスで津山駅に戻ります。途中、陸上自衛隊日本原駐屯地前にある「自衛隊前」バス停では多くの若者が乗車し、イオン津山店前で下車して行きました。自衛隊の生活の足としても活用されているようです。

津山駅から林野駅に向かいます。旅のしめくくりは、美作市-赤磐市-岡山市を縦断することとしました。

まず、林野駅近くのお店でランチです。美作市は「みまさかジビエ」を売り出しているのですが、駅から徒歩10分ほどのところにある「ボナペティ」で鹿ハンバーグをいただきました。駅に戻る途中「道の駅彩菜茶屋」に立ち寄ります。ここでも鹿や猪といったジビエを食せますが、デザートに黒豆茶ソフトクリームをいただきました。勝英地方特産である黒大豆「作州黒」の香ばしさが際立っていました。



林野駅からバスで赤磐市に向かいます。林野駅の周りでバス停を探しますが見つかりません。赤磐市行きのバスは前日に乗車した宇野バスと赤磐市広域路線バスが運行しており、この時間は後者です。またGoogleマップに聞くと、100m離れたところに車庫とバス停があるのを発見し、無事乗車できました。1時間ほど乗車し、市内中心部の「下市」で下車します。バス停は商業施設「イズミ山陽店」に隣接しています。周辺の市役所や繁盛するパン屋さんを訪ねました。

最後に岡山市に向かいます。赤磐市から宇野バスに乗り、45分ほどで岡山市の表町バスセンターに到着。待合室に掲示されている資料で宇野バスの歴史を改めて学びました。

今回の旅は岡山県北部を走り回りました。なんとか西粟倉村にたどり着けないか調べましたがありませんでした。いつかお伺いします。

【行程表】

1日目（土曜日）

11時台 岡山空港→津山駅 12時台（乗合タクシー（勝田交通）） 2,800円

13:00 津山→柵原病院前 14:01（柵原星のふる里バス（津山・柵原線共同バス）） 300円

15:54 吉が原駅→津山駅 16:30（中鉄北部バス スポーツセンター線） 740円

16:38 津山市役所前→福本 17:22（美作市営英田バス） 500円

18:07 福本→湯郷温泉下 18:20（宇野バス 美作線） 240円

2日目（日曜日）

8:30 津山駅前→奈義町役場前 9:10（中鉄北部バス 行方線・馬桑線） 810円

12:16 津山駅→林野駅 12:39 (JR 西日本 姫新線) 320 円

14:05 林野駅→下市 15:12 (赤磐市広域路線バス 赤磐・美作線) 700 円

17:15 下市→表町バスセンター 18:05 (宇野バス 美作線) 420 円

交通費 : 6,830 円

※宇野バスの情報は、宇野バスHPに掲載の時刻表又はWebの乗り換え案内での検索で調べることができます。

その他のバスは、各市のHPから情報を得ました。本記事に記載の情報はいずれも平成29年5月時点の情報です。

【地図】

今回訪問した場所の大まかな場所です。

